

# 福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞

TBSラジオ『メイのいきいきモーニング』取材紹介

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定

350-0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎049-230-1111(FAX)230-1112

福音の園®、Gospelarden®は 有限会社シャロンの商標

## 「ご家族の声」

## 優しさに包まれて、笑顔で生活しよう

数年前、大好きな女優ソーン・イエジンが主演した韓国映画『頭の中の消しゴム』を見た。三十代の結婚間もない主人公が若年性認知症となり、過去の記憶が消えてゆくという話。小説や他のメディアでも知っていたが少しショックだった。そして、今の現実、私の兄七十三歳がその認知症になってしまったのである。

「俺には兄弟はいない」と言っているという話に、これは兄弟として何とかしてやらねばと思い、今日まで訪問させて頂いている。会話は良くする。今日はこれをしたとか、昨日はみこしが来たとか教えてくれる。何が頭の中から消えて、消えずに残っているのは何なのか。四十年前、私と兄は不仲の時が長くあった。その後仲直りしている。今、兄には色々思い出して欲しいが「不仲の時」だけは忘れていて欲しいと思っている。そして、病気が進行せず、今のままの良き兄貴でいてもらいたいと願っている。介護に携わっている方々の優しさに包まれて、笑顔で生活している兄貴が

ちよつとうらやましい(弟 C・I)。

## 「福音の園・川越」重度化指針説明

## それでも最期までお世話させて頂く

グループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳

「助けてー、痛い、殺す気か！」―腰椎の圧迫骨折のため、立位や移動時の介助中、激痛に見舞われる度に発するお声(叫び)。別の場面で、「痛みはどうですか？」とSさんを気遣い尋ねると、満面の笑みを浮かべ、「えっ、どうしたんですか？ 痛くはないですよ」と返答される。これを繰り返される度に、お世話する現場では困惑にも似た葛藤が続く。

ベッドで安静になさるか、車イス上で過ごされるSさんの全身状態からは既に「グループホームでの生活」レベルを超えておられる。処方薬他で痛みの緩和を心掛けてはいるが、激痛から顔を顰しかめられる度に入院(転施設)していたかどうかと葛藤する。けれども、入院(転施設)先では「24時間ベッド安静・投薬漬け」が目に見えていることから、「施設の立場」と「本人(家族)の立場」で苦慮してしまう。苦渋の末、やっぱり初心に立って「最期までお世話させていたただこう」という結論に達して今に至っている。介護度が高くなれば、おのずから「本気度」も高くなる。



## 「私の人生の終りに付き添って欲しい」

本気で「最期までお世話」へと突き動かす動機の一つが、本人と家族双方に十分な「心の交流の機会(最期のチャンス)」を与えたいという隠れた願いである。集中治療室のベッドに、酸素や点滴の管で「口も塞がれ、手も擦さすれないまま最期を待つ」



のではなく、周囲の気遣いも不要な本人自室で心ゆくまで「心の交流の機会」を持って欲しいと心から願っている。囲みながら手を握り、勇気を出して、「お母さん、元気に育ててくれてありがとう。」  
「お前たち兄弟姉妹、仲良く暮らすんだよ。」  
「お父さんは最後まであなたの生き方を理解できなかったけど、私はちゃんと見守っていたからね。」

旅立ちの前の準備をしている私に 祝福の祈りを捧げて欲しい

(中略)

あなたの人生の始まりに 私がいっかりと付き添ったように  
私の人生の終りに 少しでも付き添って欲しい  
あなたが生まれてくれたことで 私が受けた多くの喜びと  
あなたに対する変わらぬ愛を持って 笑顔で答えたい  
私の子供たちへ  
愛する子供たちへ

『手紙〜親愛なる子供たちへ』より抜粋

原作詞・不詳 作曲・歌樋口了

父と母の二人がいたからこそ、わが命がいまこうして地球上に宿っている。『1の母あつたあつた言われ  
ぞありたりし 九たかぶる思ふべきにうにもあらじ』  
(土屋文明)。

ただ気掛かりなのは、「私を置いて出て行った母を赦せない」、「理不尽に殴り飛ばした父を赦せない」と云う、深く辛い傷を心に負った人たち。傍らに寄り添いながら、「慰めの言葉もありません。でも、あなたをこの世界に宿して下さった創造主なる神なら、あなたの心の傷を癒して下さることが出来ます」と辛抱強く、紹介し続けていきたい。祈り。